にんじん（1932）

POIL DE CAROTTE
THE RED HEAD

メディア 映画
ジャンル ドラマ
製作国 フランス
色彩 B&W
時間 91分
初公開日 1934/05/03
公開情報 劇場公開

【解説】

ジュール・ルナールの諧謔に富んだ少年小説の名作をデュヴィヴェが演出した作品。ペシミストといわれた彼なりの素材で、実際の子供が見るには少し毒っ気が強い。赤い髪、ソバカスだらけの顔で“にんじん”とアダ名される少年フランソワは、生まれてすぐ里子に出され、やがて生家に戻ったが、実母は彼に愛情がわかず、敵意さえ抱き、いつも兄フィリックスに構ってばかりいる。にんじんはこの生意気でものぐさな兄が苦手だった。言葉は優しくても取りすました姉と、父ルピック氏は彼がいてもいなくても同じといった様子。村会議員の父はたえず忙しがって、家では滅多に口をきかない。父の帰宅で真っ先に彼の胸に飛び込んでゆくのはフィリックス。にんじんも背伸びをして父に抱きつこうとするが、“上着を汚さないでくれ”と素っ気なく拒絶される。新しく来た女中のアネットだけが彼の味方だが、母の仕打を父に訴えると言われ、にんじんは、逆に母の報復を恐れて震えあがる。近所に住む里親の爺さんも彼を庇い、彼が自殺をしようとしているのを知ると、村長に当選した祝宴最中のルピック氏を怒鳴りつける。彼は慌てて息子を探し、小屋の中で首をつりかけているところを助けるのだった。父や母の愛情のなさはお互いの間でもそうで、だから、にんじんがままっ子扱いされる憂き目にあったのだ。少年は大人のそんな複雑さを垣間見た。だが、ここに初めて本当の名で父に呼ばれる喜びを覚えたのだった……。にんじんが夢の中で〈もう一人の自分〉に自殺を勧められる場面が辛い後味を残す。思うに、こうした気の毒な子供の話しを見て泣く大人は、自分の少年期の幸福な思い出を失う仮想に浸って泣くのだ。ちょうど子供のとき親にすねてみせたような気分になって……。

【クレジット】

監督	ジュリアン・デュヴィヴィエ	Julien Duvivier	
原作	ジュール・ルナール	Jules Renard	
脚本	ジュリアン・デュヴィヴィエ	Julien Duvivier	
撮影	アルマン・ティラール	Armand Thirard	
	モニオ	Monniot	
編集	マルト・ポンサン	Marthe Poncin	
音楽	アレクサンドル・タンスマン	Alexandre Tansman	
出演	ロベール・リナン	Robert Lynen	フランソワ・ルピック
	アリ・ボール	Harry Baur	ルピック氏
	カトリーヌ・フォントネ	Catherine Fonteney	ルピック夫人
	コレット・セガル	Colette Segall	マチルド
	クリスティアーヌ・ドール	Christiane Dor	アネット
	マキシム・フロミオ	Maxime Fromiot	フェリックス・ルピック
	シモーヌ・オブリー	Simone Aubry	エルネスチーヌ・ルピック

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2024 Stingray. All Rights Reserved.

ルイ・ゴーシェ	Louis Gauthier	名付け親
マルト・マルティ	Marthe Marty	オノリーヌ

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2024 Stingray. All Rights Reserved.